

中学校・第2学年・保健体育（応急手当の意義と実際）①

育成を目指す資質・能力

- (1) 知識及び技能
応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。
- (2) 思考力, 判断力, 表現力等
傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。
- (3) 学びに向かう力, 人間性等
応急手当の意義、応急手当の実際についての学習に自主的に取り組もうとすること。

ICT活用のポイント

- ・ICT端末により、各自が知識及び技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
- ・撮影した動画を仲間同士で確認したり、手順やポイントを助言し合ったりすることを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要

導入

- 応急手当の手順や留意点などについて、ICT端末を活用してその知識の習得状況を把握し、個別の課題を確認する。

展開

- 個人の課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通じて、協働的な学びの充実を図る。

まとめ

- 本時に撮影した動画から、知識及び技能の習得状況を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。

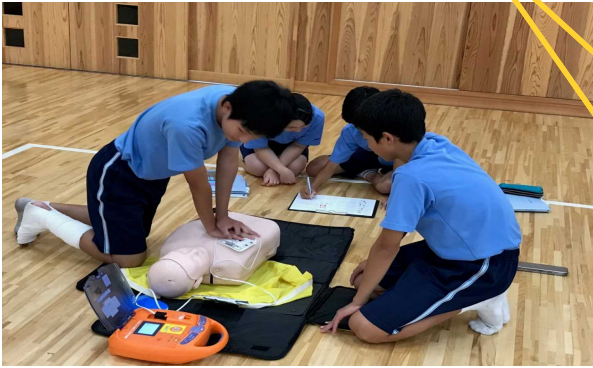
授業終了後

- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

中学校・第2学年・保健体育（応急手当の意義と実際）②

～撮影した映像から、自己や仲間の課題を把握し、協働的な学びを通して深い学びにつなげる～

【ICT活用のポイント①】



【ICT活用のポイント②】



【ICT活用のポイント③】



【ICT端末、クラウドの活用のメリット】

【生徒の支援】

- 授業導入時にクラウドに保存されている心肺蘇生法の動画を確認し、各自が課題を把握した上で個別の課題に応じた方法で行う。
- 同じグループの仲間同士で実習の様子を撮影し、模範動画の動き方と仲間の動きを比較しながら、仲間の課題や出来映えを伝える。
- 本時に撮影した動画を友達同士で比較し、本時の目標の達成状況を確認するとともに
- 実習を通して気付いた新たな課題等について共有し、再度取り組むことにより課題の解決を図る。
- クラウド内に保存されている自己・相互評価シートや学習カードなどのファイルを開いて全体で共有しながら総括をする。

【教師の支援】

- ◆ クラウド上にある個々の生徒の記録を確認することで、教師が生徒の知識や技能の習得状況などを把握することができ授業改善につなげられる。
- ◆ 自己・相互評価シートや学習カードの内容をクラウド上に一括管理することで、単元や年間の評価を総括する際の業務の効率化を図ることができる。

【活用したソフトや機能】 動画撮影機能、学習支援ソフト